

文・写真 松澤美穂

# 地方 紀民 行鉄

## 熊本電気鉄道株式会社



カラフルなくまモンのラッピング電車  
引退した「青ガエル」  
それぞれの電車には、  
驚くような、笑えるような  
エピソードが一杯。  
熊本電鉄沿線で、  
見るべき名所は「電車」です。

「沿線に観光する場所とか、ないんですよ。だから代わりにちよっと話をね」。ここは、熊本電鉄で唯一、駅員さんが常駐している北熊本駅の駅事務所。「熊本電鉄」と記された資料やダイヤグラムを広げ、鉄道事業部運輸課の中野課長が話します。

「観光地がない」と言っけれど、北熊本駅に来るために、藤崎宮前駅から乗車した熊本電鉄の車内は中国語で一杯。日本人乗客は自分だけじゃないかと思うほどの状況だった。あの団体客は、何をしに来たのだろうか。

「観光地がない」と言っけれど、北熊本駅に来るために、藤崎宮前駅から乗車した熊本電鉄の車内は中国語で一杯。日本人乗客は自分だけじゃないかと思うほどの状況だった。あの団体客は、何をしに来たのだろうか。

「電車に乗るのが目的なんです」。熊本県のご当地キャラクター・くまモンは台湾でも大人気。くまモンのラッピング電車を導入して以降、台湾からの団体客が年々増加しているのだとか。多くの場合、藤崎宮前駅から北熊本駅まで乗車して、北熊本駅併設の「くまもんショップ」で買い物。その後、駅前で待っていた観光バスで移動して行くらしい。

### 観光名所は電車

観光客が乗車していても、沿線に観光名所があるわけじゃない。熊本電鉄の観光名所を電車そのものとするなら、もう一つ大きな観光名所がある。

北熊本駅のホームからは、隣接する車両庫にある2016年に引退した「青ガエル」と呼ばれる車両がはつきり見える。鉄道ファンには絶好の「観光名所」だ。

確かに、熊本電鉄のラッピング電車は可愛い。内側にも外側にもくまモンが描かれたカラフルな電車は「インスタ映え」もしそうだ。利用者数増加に向けた鉄道会社の企画の勝利！と思ったら、「最初は単なる目印だったんですけどね」と言う。

「たくさんの人に惜しまれ、支援をいただき、動かせる状態での保存を決めました。でもね、地元の利用者には『引退』を喜ぶ人も多かったですよ」。というのも、車体の古い「青ガエル」には冷房が搭載できず扇風機のみ。最高気温が年々上昇する中、冷房なしは辛い。日常、利用する人が喜ぶのも無理はない。その環境は乗務する運転士さんも、もちろん同じ。「暑いのはもちろん、古い『青

熊本電鉄では2014年、国内初採用となる新しい台車を導入。鉄道関係者の関心が集まる中、新しい台車を着けた車両がどれだか

分かりやすくするために、くまモンのラッピングを採用。ちょうど同時期、旅行等を担当する部署が台湾の旅行会社と話をすることで、くまモンのラッピング電車が注目され、現在に至るのだとか。



校外学習での説明を上演中の中野課長。



北熊本駅で一斉に下車する乗客。

### 熊本電鉄

【くまもとでんてつ】

藤崎宮前から北熊本を通過して御代志までをつなぐ本線と、上熊本から北熊本を結ぶ上熊本線の2路線を運行。本線の一部には、軌道が道路上を走る路面電車のような区間がある。





くまモンのラッピング電車。関東近郊ではあまり見られない表情のくまモンもいる。2号車、3号車は車内もカラフル。



再塗装が終わったばかりの「青ガエル」。連結するため平らになった反対側を「平面ガエル」と呼ぶ人もいるとか。

「ガエル」は運転も難しいんです。鉄道好きとしては寂しくても、日々乗務する運転士としては、ちよつと喜んでいたらんじゃないかな。それもまた、無理もない。

引退後の「青ガエル」は、イベントや小学生の校外学習などに使われている。

### 人気者「青ガエル」

せつかくだし、「青ガエル」を近くで見たい。希望が顔に出ていたのか、「車両庫を見ていきますか」とご案内いただく。

車両庫には「青ガエル」以外にもいくつかの車両が停車中。線路の位置から見上げる電車は、ずいぶん大きい。校外学習で見学に来る子どもたちも、まずは電車の大きさに驚くという。お目当ての「青ガエル」は再塗装も終わり、きれいな緑の車体が復活。「暑いですが、中に入る勇氣はありますか?」。もちろんですとも。

運転席のドアの下、小さなステップに足を掛けてよじ登る。危なっかしい格好でなんとか運転席に体をねじ込むと、とたんにずっしりとした熱気に包まれる。35度を超える猛暑日、炎天下に停車中の車内はまさに蒸し風呂。数分と居られず、早々に退散。

「今日ほど暑い日ではなかったですけど、鉄道会社の知人は、しばらく運転席にいましたよ」。仕事のついでに「青ガエル」に会いに来る鉄道関係者もいるようで、中には2時間近くも運転席で「思いを馳せていた」人もいたのだとか。好きな人は、本当に好きなのである。

### もつと電車に注目を

中野課長にお別れをして、現役の観光名所、くまモンのラッピング電車で沿線に出る。藤崎宮前駅―北熊本駅間とは打って変わって、乗客は多分、全員日本人。日常利用している沿線住民たちが、車内を彩るくまモンに目を奪われることはなく、一人キョロキョロしているうちに終点・御代志駅に着。

「観光」とまではいかないけれど、昨年出来たばかりの「台志マンガミュージアム」まで足を延ばしてみる。館内は夏休み中の小学生で一杯。涼しい部屋で漫画を読みふけるのは魅力的だけど、あつという間に時間がたつてしまいうそう。ぐつと我慢して駅に戻ると、くまモンのラッピング電車としてはあつさりとした見た目、1号車が待っている。

車内に入り込み、模様のついた座席シートを目にした途端、中野課長の笑い声が蘇る。

「1号車のシートは熊本の名物や名所がデザインされていてね、その中に馬がいるんです。それね、デザイナーは『馬刺し』をイメージしたらしいんです!」。馬刺しは確かに熊本名物。でも、城や家紋に混じって馬がデザインされていたら、普通は「殿様の愛馬?」くらいに考えるのでは。シートの柄など気にもせず、電車で揺られる乗客たちは、そんな事実をきくと知らない。シートの「馬」が目に入るたび、思わず笑いがこみ上げる。知らなくても支障はないけど、知っているちよつと楽しい裏話。

熊本電鉄乗車の際は、ぜひ電車に注目を。



観光客の一番人気は、黄色が鮮やかな3号車。



比較的落ち着いた見た目の1号車。座席シートには思わぬエピソードが。

